

論 文

石川県における市町村保健婦の 保健活動に関する調査

長沼 理恵・大森 絹子・橋爪 祐美・牧本 清子
(金沢大学医学部保健学科)

A Survey of Community Health Nurses
in Ishikawa Prefecture

Rie Naganuma, Kinuko Omori, Yumi Hashizume, Kiyoko Makimoto
School of Health Sciences, Faculty of Medicine, Kanazawa University

要 旨

近年の地域保健法の施行や介護保険制度の導入、保健婦に対する大学教育制度の進展など、保健婦を取り巻く環境は時代の流れと共に変化し、将来における保健婦活動の役割・機能の検討が求められている。本調査では石川県における保健計画の策定や評価に対する保健婦活動の現状と保健婦に対する卒後教育の実態を把握し、大学教育機関が今後果たすべき役割について検討した。母子保健計画の策定には約5割の保健婦が関与していたが老人保健福祉計画への関与は1割に過ぎなかった。このうちの約半数の保健婦は計画の達成感は低いと回答し、計画評価が実施されたと回答した保健婦は3割にも満たなかった。その理由として保健婦の業務量の多さや時間的なゆとりの無さが挙げられた。約6割の保健婦が卒後教育や研修を受けていたが、システムとして整備されていると答えた者はほとんどいなかった。以上より、保健婦のマンパワーと活動内容の充実、卒後教育体制の見直しと教育機関との連携強化を図って行く必要性が示唆された。